



写真1：園内のシイ型照葉樹林（左側）と温帯北部型落葉樹林（右側）の境界域。濃緑の照葉樹林と明るい緑色の落葉樹林の違いがよく分かる。
写真2・3：本園のシイ型照葉樹林。植栽木が小さかったころ（写真2、1967年）と現在（写真3、2023年）の園内の様子。

11タイプの樹林型を展示—大阪公立大学附属植物園—

大学の知を発掘！
029

大阪公立大学附属植物園（大阪府交野市）は、1941年大阪市興亜拓殖訓練道場として開設された。1950年大阪市立大学理工学部附属植物園として発足し、1954年に開園した。その後、2021年からは大学附属植物園となった。本園の特徴の1つは、日本国内のさまざまなタイプの樹林が、自然に近い形で再現されていることである。北海道から九州にかけて分布する11タイプの森林を1つの植物園の中で見ることができる、世界でも類を見ない展示とあってよい（写真1～4）。

樹林型展示の設立は、本学の前身の1つである大阪市立大学に1949年に着任した吉良竜夫^{1919～2011}の発案によるところが大きい。吉良は、日本の多様な森林の分布境界を自らが考案した温量指数という数値でみごとに説明してみた。この成果は、現在でも高等学校の生物学の教科書で取り上げられている。さらに吉良は著書『自然保護の思想』（人文書院、1976）の中で、環境問題の重要性を説いている。吉良が大学で教鞭をとった30年余りの時期（1949～1981年）には、日本の工業化や列島改造が急速に進んだ。その結果、日本は経済大国となった一方で、公

害による環境汚染や健康被害というひずみも生まれた。地球環境問題の解決のために森林が必要とされる時代がくることを、吉良は予見していたのではないだろうか。

現在、環境問題への取り組みは、グローバルかつ深淵なものとなっている。生物の多様性に関する条約が1993年に発効し、「種」「遺伝子」「生態系」の3つのレベルの生物多様性の保全を目指すことが国際的な約束事となった。2015年の国連総会で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の中では「陸の豊かさを守ろう」が掲げられ、持続可能な森林経営が進められている。2021年のG7サミットでは、「2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全する」ことを目指して、30by30（サーティ・バイ・サーティ）という目標に各国が合意した。自然環境を積極的に回復させる「ネイチャーポジティブ」、温室効果ガスの排出量を実質的にゼロにする「カーボンニュートラル」、自然環境を活用して国土・都市・地域づくりを進める「グリーンインフラ」など、新たな考え方も生まれている。

森林は脆弱な守られるべき対象ではなく、人類的課題のために必要とされる存在となっている。本園の11タ



大阪公立大学・高専基金へのご寄附のお願い

お申込み時に「特定プロジェクトのために：⑨-3、⑨-7」を選択してください。（⑨-3：1号館ミュージアム構想のために ⑨-7：大阪府立大学創基140年事業のために）

【お問い合わせ】 渉外企画課 TEL: 06-6605-3415
<https://www.omu.ac.jp/fund/>

編集発行

大阪公立大学 大学史資料室
協創研究センター・大学史編纂研究所

杉本キャンパス学術情報総合センター6階（大学史資料室）
Tel : 06-6605-3371 E-mail : gr-gakj-archives@omu.ac.jp



写真4：園内に再現・展示されている11タイプの樹林型。

- 1：温帯北部型落葉樹林 シナノキ、イタヤカエデ、ミズナラ、ハルニレ、ハリギリなどから成り立つ落葉樹林で、北海道の温帯域に分布する。
- 2：温帯南部型落葉樹林 ブナ、ミズナラなどが優占する落葉樹林で、ケヤキ、トチノキ、カエデ類などが混交する。
- 3：暖帯型落葉樹林 クヌギ、コナラ、シデ類などを主とし、日本の里山を作る森林である。
- 4：高地カシ型照葉樹林 ウラジロガシ、シラカシ、アカガシなどを主とする。近畿から九州の山地にみられる。
- 5：低地カシ型照葉樹林 イチイガシやツクバネガシなどが優占する森林であるが、開発によって二次林、農地、都市などへと変わり、もとの面影をとどめる森林は少ない。
- 6：シイ型照葉樹林 ツブラジイ、スダジイ、アラカシなどを優占種とする。大部分は農耕地や居住地域に変わり、現在では社寺林などにその面影をみることができる。
- 7：タブ型照葉樹林 タブノキ、クスノキなどを優占種とし、もこもことした樹冠をもつ。日本の暖帯林の代表的な森林である。



- 8：海岸型照葉樹林 照葉樹林帯の海岸地方に分布する樹林である。乾燥や潮風に耐える小型で厚く硬い葉をもつ、ウバメガシ、トベラ、シャリンバイなどの低木が多い。
- 9：ヒノキ・サワラ型針葉樹林 スギ・ヒノキ天然林はこの型に属する。天然性か人為的な林か、明らかでないものも多い。
- 10：モミ・ツガ型針葉樹林 モミ、ツガなどを優占種とし、照葉樹林と落葉広葉樹林との間の中間帯に分布する。
- 11：アカマツ型針葉樹林 クヌギ・コナラ型の森林と並ぶ日本の代表的な二次植生である。

イブの森林は、その創設・発展・維持にかかわったすべての人々の思いに応えるかように、今まさに成熟の時期

を迎えている。樹林型展示がその本領を発揮する時はこれからであると確信している。(大学附属植物園 名波 哲)



資料室だより

◆大学史資料室では「大阪公立大学 大学史資料室 NEWS LETTER」を発行しています。大阪公立大学の貴重な学術資料や大学の歴史を紹介いたします。◆この「NEWS LETTER」は、大阪市立大学「140周年展+大学史資料館(大学博物館)設立準備 NEWS LETTER」の後継紙であり、「大学の知を発掘!」の番号を引き継いでいます。両紙とも大阪公立大学 大学史資料室のホームページ、図書館ホームページの機関リポジトリで公開しています。

大学史資料室からのお願い

現在、学内にある資料の所蔵調査を行なっています。学術資料そのもの、研究の過程で残された資料類、実験装置や器具類、実習に用いられた教材や作品などを、大学史にかかわる資料とともに探しています。候補となる資料がありましたらご一報ください。

→杉本キャンパス学術情報総合センター6階 大学史資料室

Tel: 06-6605-3371